

第19回世界歴史都市会議の開催結果 ー スロベニア共和国リュブリャナ市にて開催 ー

第19回世界歴史都市会議は開会式と基調講演で幕を明けました。基調講演では、ヤネス・コジェリ教授による「歩きやすさ」や「環境への配慮」に関するリュブリャナ市での取組・対策の説明がありました。午後のラウンドテーブルIでは、「歴史都市の都市部の質と魅力の要因としての『歩きやすさ』」をテーマとし、6都市の代表がそれぞれの都市の戦略について発表し、ラウンドテーブルIIでは、「歴史都市で持続可能なモビリティを実現するための課題と方法」について5都市から発表がありました。夜にはヤンコヴィッチ市長主催の歓迎晩餐会がリュブリャナ城にて開催されました。

2日目には、まず、ユースプログラムのオープニングセレモニーが行われました。リュブリャナ市文化局のマテヤ・デムシッチ氏とリュブリャナ市の小学生2名による司会進行で行われ、2年生から7年生までの本プログラムに参加した生徒達が出席しました。会場にはリュブリャナ市及び加盟都市の子ども達による素晴らしい作品が展示されており、記念品贈呈が行われました。続いて、「文化遺産の劣化を防ぐための持続可能なモビリティ」というテーマで専門家会議が行われ、リュブリャナ副市長であるロク・ジニダルシッチ准教授とスロベニア文化省事務次官であるマテフ・チュリク・ヴィドマル氏が意見交換をする形で様々な観点から課題を解決する試みの紹介や、参加者との考えの共有が行われました。午後には、2024年度理事会の開催とシュコーフィア・ロカへのエクスカーションがありました。

最終日にはヨジェ・プレチニクの作品を巡る市内ツアーがありました。午後には2024年度総会が開催され、会長と事務局長による理事会報告が行われました。閉会式の最後には、会議の成果として「リュブリャナ宣言」が採択され、会議参加都市の代表者達による宣言文への署名が行われました。

<概要>

- 会場 : センター・ログ (スロベニア リュブリャナ市)
- 期間 : 2024年11月12日-14日
- テーマ : 「持続可能な都市モビリティによる活気ある歩きやすい市街地づくり」
- 使用言語 : 英語、日本語
- 参加都市 : 29都市 (15箇国)
- 参加者数 : 152名 (ユースプログラムに参加したリュブリャナ市の小学生を含む)

2024年度理事会・総会の開催結果

2024年度理事会は、8つの全理事都市出席のもと開催されました。バグルン、スンコシ、ポテコシ (ネパール) とマシュハド (イラン) の新規加盟が承認され、現加盟都市は135都市 (65箇国・地域) となりました。その後、第20回・21回世界歴史都市会議の開催立候補都市4都市によるプレゼンテーションが行われ、理事都市の代表者による投票の結果、第20回開催都市 (2026年) として姫路市 (日本)、第21回開催都市 (2027年) としてイスファハン市 (イラン) が選ばれました。

2024年度総会では、安東市で開催された2022年度総会以降に加盟した都市が紹介されました。事務局から2023年度の事業・決算報告及び2024年度の事業・予算報告が行われるとともに、会長から姫路市 (日本) が第20回会議 (2026年開催)、イスファハン市 (イラン) が第21回会議 (2027年開催) の開催都市に決定したことが発表されました。総会は、副会長であるアルタイ市長 (コンヤ市) による第19回会議のまとめと、「経験と交流が各都市の保護と発展に必ずや寄与し、また次世代に継承される」との言葉で幕を閉じました。

リュブリャナ宣言

第19回世界歴史都市会議出席のためにリュブリャナ市に集った私たち世界歴史都市連盟加盟都市の市長は、次世代のために都市の文化遺産を保存し、活用する責務を有することを確認します。建築的・文化的・社会的意義に富む歴史都市は、現存する人間の創造性や回復力の証であり、アイデンティティを育み、地域社会の結束を高め、持続可能な発展を遂げるために極めて重要です。

急速な都市化、気候変動、技術の進歩、社会の変容がもたらす課題を認識し、歴史都市が過去に敬意を払いながらも未来を受け入れる、活気あふれ、包括的で持続可能な場所であり続けるための取組を行います。

これらの目的を達成するため、私たちは以下の原則について、共に取り組むことをここに宣言します。

1. 文化遺産の保護

歴史都市の有形・無形文化遺産の保護と復元に継続して取り組みます。歴史的建造物、記念碑、公共空間を細心の注意を払って保全し、また適宜再活用することにより、歴史都市の遺産を次世代へ残していくことを確約します。

2. 持続可能な都市開発

都市計画・開発に持続可能な手法を取り入れます。歩きやすさ (ウォークアビリティ)、グリーンインフラ、持続可能なモビリティ、二酸化炭素排出量の削減、エネルギー効率の優先などを推進することにより、歴史的特徴を維持しながら環境面でもしなやかな都市づくりを目指します。

3. 文化交流と協力

歴史都市の保存と管理に関する知識、優れた施策、専門知識を共有するなど、加盟都市間の対話と協力を継続して推進します。また、文化交流を通して国際理解と連帯を深め、世界平和と安定に貢献します。

4. 教育と意識

若い世代に対し、文化遺産の重要性に関する意識向上に取り組みます。市民への啓発活動を推進したり、文化イベントを開催したりすることで、自らのまちを守っていくことへのプライドと責任感を抱かせることを目指します。

5. 包括的で利用しやすい都市

年齢、能力、社会経済的地位に関係なく、全ての人が便利な都市づくりに取り組みます。歴史的環境を包括的で居心地がよいものにすることにより、都市における公平性と社会正義を育むという私たちの取組を再確認します。

本宣言に署名することで、持続可能な都市開発を推進しながら歴史都市の文化遺産を保護するという取組における支援・協力を誓うとともに、世界歴史都市連盟の価値観と原則に共に献身的に取り組んでいくことを再確認します。歴史都市が文化遺産、持続可能な開発、そして国際協力の指針であり続けられるために、第19回世界歴史都市会議を私たちが共に行ってきた取組の転換点としましょう。

2024年11月14日
スロベニアの首都 リュブリャナ市にて



世界歴史都市連盟事務局

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
lhcs@city.kyoto.lg.jp <https://www.lhcs-s.org>

新規加盟都市紹介

ーアゼルバイジャン シュシャー

シュシャはアゼルバイジャン西部の中世城下町で、小コーカサス山脈の標高1300mから1500mに位置します。18世紀中頃、カラバフのハンであったパナヘリハンがカナーテ（領土）の首都として建設、その後激動の歴史を辿りました。

まちが位置するシュシャ台地は三方向が岩石の絶壁であるため、一方向のみ防御壁で囲まれた難攻不落の要塞でした。カラバフのハンが居住したシュシャはアゼルバイジャン文化の発生地であり、芸術・科学の分野における著名人を多く輩出しています。2021年5月7日付のアゼルバイジャン共和国大統領交付の政令により、シュシャはアゼルバイジャンの文化首都と定められました。

シュシャが位置する台地の比較的低い平地には、17の歴史行政区が存在します。各区には広場、モスク、泉、浴場があります。人目を惹く邸宅やバルコニーを備えた石造りの家々が街中の道を彩っています。シュシャ産出の大理石で作られた美しい家々は繊細且つ簡素に彫られた石で装飾されています。シュシャのカーバライ サフィ ハンにより完成したモスクは何世紀もかけて創り上げられたカラバフ派建築の一例ですが、これらの多くの遺跡は我々の時代に廃墟と化してしまいました。

1992年に危機的な紛争が起こり、その後28年間続くこととなります。この紛争で、シュシャの遺跡は甚大な損害を被り、多くは破壊されてしまいました。現在196の歴史的建築物・遺跡が国の保護下に置かれています。

紛争終了後わずか数か月で、大規模建築の修復、改築、地域の危険物等の除去が始まりました。復興の取組が柔軟かつ効率的に行われるよう、シュシャ地区行政保存局が設置され、その目的はシュシャの歴史、文化、観光及び娯楽面の可能性を十分に活用できる好条件を創り出すことです。2024年、退去を余儀なくされた市民がユシャに戻りはじめました。

シュシャの歴史都市としての景観及び建築学的価値を組織的に守るため、全ての歴史的建築物・遺跡は新たに作成された基本計画に盛り込まれ、将来的に修復される予定です。目下シュシャで建設中又は設計中の新しい建物は、建築学的価値や、歴史都市の環境及び構造保全の観点が考慮されています。

過去3年間、モスク、宿（キャラバンサライ）、噴水、住居を含む17の遺跡が既に修復され活用されています。また、今後数年以内にいくつかの大規模修復及び保全工事が予定されています。建築物は社会、公共及び観光目的に適合するよう修復されています。歴史的な石畳の道は、道路の設計・施工によって保持され、歴史都市の景観となる主な要素は維持されています。修復工程では、当地の原料、研究、そして伝統的技術が活用されています。

廃墟と化した街を再生させるには多くの時間と資源を費やさなければなりませんが、シュシャでは既に、紛争後初めて住民及び観光客を迎え入れることができました。

第20回世界歴史都市会議開催都市 姫路市長挨拶

この度は姫路市が第20回世界歴史都市会議の開催地として選ばれ、2026年に世界各都市より皆さまを姫路市にお迎えできますこと、大変嬉しく、そして光栄に存じます。

本市は、2021年に世界歴史都市連盟に加盟いたしました。2024年開催の第19回世界歴史都市会議では、スロベニア・リュブリャナ市において現地参加し、加盟都市の皆さまの多様な政策について学ばせていただきました。

本市は、築城400年を超え、日本で初めて世界遺産に登録された姫路城に象徴される、歴史と文化を有する都市です。そして数多くの文化財や祭り、伝統工芸、地場産業など、豊かな地域資源が受け継がれております。

また、1995年に起きた、阪神・淡路大震災という大災害の経験から、人々の暮らしを守るとともに、我々が受け継いできた遺産や伝統を後世に引き継ぐために、強靱なまちづくりへの取組を推進してまいりました。

さらに、近年の気候変動問題をはじめとする地球規模課題に対しても正面から向き合い、本市は2050年までに「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言し、持続可能なまちづくりに積極的に取り組んでおります。

世界歴史都市会議は、歴史都市が直面する課題に対し、経験と成果を共有する貴重な場です。

第20回会議では、本市の経験や、強靱で持続可能な未来に向けた取組を世界の加盟都市の皆さまと共有させていただくとともに、遺産を次世代に引き継ぐ各加盟都市の課題や政策等について協議してまいりたいと考えております。

本市の歴史や文化を体感いただけるプログラムで、2026年に皆さまをお迎えすることを心待ちにしております。

ーギリシャ コリントスー

歴史都市コリントスは、西洋文明と東洋文明が出会う交差点として機能し、輝かしい貿易・文化・技術の中心地となりました。その経済は、盛んな商業活動、製陶業、見事な造船術を基盤とし、古代史に不朽の痕跡を残しました。

古代の港であるレカイオン港とケンクレアイ港は、後にコリントス運河に取って代わるディオルコス（陸上で舟を移動できるようにする舗装道路）と共に、物資や思想を地中海広域に運ぶための重要な玄関口として機能した注目すべき土木事業です。コリントスの三段櫓船や植民地であったシュラクサイ、コルキュラ、フィエル、ボティダイア、アクティウムにコリントスの影響力を垣間見ることができます。

芸術と建築における文化遺産には、コリント様式の見事な調和と気品が表れています。卓越した職人技と美的特徴があるコリントスの陶磁器は、地中海全域に広まり、賞賛され、注目されていました。

西暦51年の使徒パウロの訪問によりキリスト教共同体が確立し、コリントスに変化と革新の風がもたらされました。

今日、コリントスは過去と現在が融合した活気あふれる観光地となっており、ここを訪れる全ての人々は、忘れがたい経験と、唯一無二の思い出を得ることができるでしょう。コリントスは、まちの文化歴史遺産を尊重しながら、2025年までに本格的かつ持続可能な経験を体験できる一番の観光地となることを目指しています。その戦略として、文化・宗教・体験型などのテーマ別の観光形態を充実させることに重点を置き、地域の競争力と世界的な知名度の向上に貢献します。

巡礼と宗教観光 ー使徒パウロの歩みー

使徒パウロのコリントス滞在と活動について周知することは最優先事項です。文化省と協働し、使徒パウロが辿った陸路に沿ってソフトインフラを整備する計画を立てています。文化、ハイキング、巡礼の道では、ギリシャ全土にある、使徒パウロが訪れた駐留地やまちを迎えることができます。古代ケンクレアイ港から古代コリントスを結ぶルートは既に完成しています。

文化観光 ー遺跡の一体化と充実ー

文化省とコリントス市は協働し、遺跡を市内の文化拠点と一体化させ、来訪者へのサービスを向上させることで、文化観光の充実を図ると共に、文化と余暇の場を創出しています。本計画では、以下を行っています。

- アクセスの向上 ー障がい者のための交通手段の整備とエレベーターの配備
- 新しいインフラ整備 ー土産物店、展示スペース、古代コリントスのクセニアスの丘に建設する新しい考古学博物館
- 遺跡に訪れやすくする ー散策路と「北部考古学公園」の創設
- 修復 ー古代コリントスの南ストアやその他の重要な建造物の修復

体験型観光-ハイキング

歴史と自然の美しさに恵まれたコリントス市は、古代に使われていた道を活用し、ハイキング観光の目的地として台頭しつつあります。市の戦略的な立地、文化遺産、広大な海岸線、自然の美しさにより、通年観光が可能となっており、観光客に幅広い体験を提供しています。散策路ネットワークの利点：

- 田園風景、文化遺産、伝統の保全・保護・促進
- 特別な自然景観や繊細な生態系の効果的な保護・管理
- 市民や観光客の健康と体力促進
- 自然、歴史、文化等の史跡や名所といった特別な関心の対象となるような場所を繋げられる。
- 収入、雇用創出、特産品振興を通し、地域の発展を支援
- 近隣の土地の地価を上げる。
- 自然災害（洪水、火災等）の予防と対策への支援
- 都市部に緑の憩いの場を作ることで、混雑緩和や大気汚染削減に貢献するとともに、都市問題の解決を図る。